

平成27年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月2日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 クリーク・アンド・リバー社  
 コード番号 4763 URL <http://www.cri.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井川 幸広  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 黒崎 淳

TEL 03-4550-0011

四半期報告書提出予定日 平成26年10月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第2四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第2四半期	11,789	12.2	928	25.1	941	26.7	529	60.1
26年2月期第2四半期	10,505	23.0	742	23.1	743	23.1	330	81.7

(注) 包括利益 27年2月期第2四半期 584百万円 (40.9%) 26年2月期第2四半期 414百万円 (80.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第2四半期	24.60	24.28
26年2月期第2四半期	15.35	15.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年2月期第2四半期	7,905	4,596	53.3
26年2月期	8,551	4,318	46.8

(参考) 自己資本 27年2月期第2四半期 4,215百万円 26年2月期 3,997百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	0.00	—	5.00	5.00
27年2月期	—	0.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	11.6	1,400	28.1	1,400	28.2	700	42.5	33.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年2月期2Q	22,609,000 株	26年2月期	22,609,000 株
27年2月期2Q	1,409,100 株	26年2月期	1,080,900 株
27年2月期2Q	21,504,356 株	26年2月期2Q	21,528,100 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 経営成績に関する説明	4
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策及び金融政策を背景に、企業収益、雇用・所得環境に回復の傾向が見られる等、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは「人の能力により社会に貢献する」ことを理念として掲げ、事業を運営してまいりました。当社グループのネットワークする、クリエイター、医師、ITエンジニア、弁護士、会計士、建築士、ファッションデザイナー等、専門的な能力を有するプロフェッショナルへのニーズは旺盛で、事業が堅調に推移いたしました。

これらの結果、当社グループの第2四半期連結累計期間の業績は、売上高11,789百万円(前年同期比112.2%)、営業利益928百万円(前年同期比125.1%)、経常利益941百万円(前年同期比126.7%)、四半期純利益529百万円(前年同期比160.1%)となり、全ての項目において第2四半期連結累計期間として過去最高の業績となりました。

当第2四半期連結累計期間における事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①クリエイティブ分野(日本)

クリエイティブ分野(日本)は、グループの中核となる当社が、映像、ゲーム、Web・モバイル、広告・出版等のクリエイティブ領域で活躍するクリエイターを対象としたエージェンシー事業を展開しております。

映像・TV・映像技術関連分野においては、当社独自のリクルーティングによる映像専門社員85名が4月に入社し、TV番組の制作スタッフ数が増加していることに加え、当社が企画・制作協力を担当する番組がレギュラー番組、特別番組ともに増加し、業容を拡大しております。

ゲーム分野においては、コンシューマー、アミューズメント、ソーシャル分野のクリエイター需要増に着実に対応するとともに、ゲームクリエイターが常駐する制作ルームを中心とし、自社開発機能及び制作受託機能を強化しております。平成22年より当社が運営する自社開発によるソーシャルゲーム「刃牙」シリーズは、100万人を超える会員数を背景に、6月にニコニコアプリ版「タイピングラップラー刃牙」をリリースし、好評を得ております。

Web分野においては、大手広告代理店を経由した大規模Webサイトの制作案件が増加している他、求人サイトやグルメサイト、大手ポータルサイトの取材・撮影・制作案件等が増加しており、当社独自の採用、育成によるアカウントプロデューサー社員を中心に対応しております。

出版分野では、Amazon Kindleを始めとした複数の専用端末に対し当社が取次を行なう電子書籍取次事業において、順調に配信数、ダウンロード数が増加し、事業の黒字化を達成いたしました。また、昨年より開始した作家エージェンシーにおいては、椎名誠氏の名作を「椎名誠 旅する文学館」シリーズとして電子書籍刊行したことを始めとし、約80名の作家をネットワークし、事業の基盤が順調に整いつつあります。

前連結会計年度より開始したYouTube「オンラインクリエイターズ」の運用においては、アジア最大規模のマルチチャンネルネットワークを背景に、企業のプロモーション案件が増加しております。

これらの結果、クリエイティブ分野(日本)は、売上高6,920百万円(前年同期比102.5%)となりました。なお、前年同期には当社が制作した劇場公開映画『少年H』の収益寄与があり、同影響を除くと当第2四半期連結累計期間の前年同期比は113.6%となります。

#### ②クリエイティブ分野(韓国)

クリエイティブ分野(韓国)は、連結子会社CREEK & RIVER KOREA Co., Ltd.が、クリエイティブ分野(日本)と同様のビジネスモデルを韓国にて展開しております。

TV・映像分野におけるクリエイターの派遣需要に的確に対応している一方で、韓国国内における派遣事業の競争激化等の影響を受けており、トップクリエイターのマネジメント、当社グループの他分野と連動した出版エージェンシー事業、ファッションクリエイター・エージェンシー事業等の推進により、収益の多様化を目指しております。

これらの結果、クリエイティブ分野(韓国)は、売上高1,625百万円(前年同期比112.5%)となりました。

### ③医療分野

医療分野は、連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社が、「民間医局」のブランドのもと、ドクター・エージェンシーを中心とした事業展開をしております。医療機関や自治体、医師や看護師の多様なニーズに応えるべく、医師の紹介事業を中心に、医学生・研修医を対象とした「レジナビフェア」、臨床研修情報サイト「レジナビ」、医師の転職・求人・募集情報サイト「Medigate(メディゲート)」等のサービスを展開しております。全国各地での慢性的な医師不足、地域的偏在を背景に、医師へのニーズは引き続き高く、医師の紹介事業が好調に推移いたしました。

これらの結果、医療分野は、売上高1,766百万円(前年同期比111.0%)となりました。

### ④その他の事業

IT分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社リーディング・エッジ社では、革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ(HPCI)の大規模な計算結果を可視化するビジュアライゼーション事業が好調に推移し、業績向上に寄与しております。

法曹分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社C&Rリーガル・エージェンシー社では、弁護士の登録者数が7,000名となり、弁護士の紹介事業が順調に伸長しております。

会計分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社ジャスネットコミュニケーションズ株式会社では、会計・経理人材の派遣事業・紹介事業が拡大する一方で、会計関連各種団体との関係強化、クライアント企業・事務所との共同セミナーの積極的な開催等を通じ、会計業界における認知度向上をはかっております。

また、昨年12月にファッション分野の加速的な成長を狙いに連結子会社化した株式会社インター・ベルにおいては、アパレルメーカーとの豊富なネットワークと同社の持つ販売員育成ノウハウにより、アパレルメーカーからのニーズが増加しており、事業が順調に推移いたしました。

これらの結果、その他の事業は売上高1,476百万円(前年同期比204.9%)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末より706百万円減少し6,339百万円となりました。これは、主として現金及び預金の増加122百万円、受取手形及び売掛金の減少1,157百万円及び短期貸付金の増加284百万円等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末より60百万円増加し1,565百万円となりました。これは、主として敷金及び保証金の増加70百万円等によるものであります。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末より917百万円減少し3,145百万円となりました。これは、主として営業未払金の減少1,374百万円、未払金の増加239百万円、未払費用の増加104百万円及び短期借入金の減少150百万円等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末より5百万円減少し163百万円となりました。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末より278百万円増加し4,596百万円となりました。これは、主として利益剰余金の増加421百万円及び自己株式取得による減少186百万円等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の通期連結業績予想につきましては、建築、ファッション、作家等、新規エージェンシー事業の需要増に対応した拡大投資、当社ゲーム・アプリ分野における自社開発事業の拡大及び制作受注の増加に伴う積極投資を第3四半期以降に予定していることを鑑み、当第2四半期連結累計期間において期初予想を超過した額の一部について、業績予想を上方修正いたしました。

詳細につきましては、平成26年9月25日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

#### ① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### ② 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,788,474	2,911,185
受取手形及び売掛金	3,915,136	2,757,172
仕掛品	51,617	83,651
貯蔵品	1,665	2,107
その他	314,340	596,868
貸倒引当金	△25,264	△11,248
流動資産合計	7,045,969	6,339,738
固定資産		
有形固定資産	214,176	222,077
無形固定資産		
のれん	93,892	69,168
ソフトウェア	208,265	196,671
その他	10,719	26,805
無形固定資産合計	312,876	292,645
投資その他の資産		
敷金及び保証金	506,220	576,938
その他	844,606	759,410
貸倒引当金	△370,624	△285,350
投資損失引当金	△2,196	—
投資その他の資産合計	978,005	1,050,998
固定資産合計	1,505,059	1,565,721
資産合計	8,551,028	7,905,459
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	2,468,066	1,093,800
短期借入金	450,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	12,028	11,628
未払法人税等	185,335	242,292
前受金	92,343	121,513
賞与引当金	146,850	209,821
保証履行引当金	7,232	14,143
その他	701,006	1,151,865
流動負債合計	4,062,861	3,145,064
固定負債		
長期借入金	63,491	58,312
退職給付引当金	99,143	100,910
その他	7,024	4,573
固定負債合計	169,658	163,795
負債合計	4,232,520	3,308,860

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,035,594	1,035,594
資本剰余金	1,874,684	1,874,684
利益剰余金	1,248,532	1,669,990
自己株式	△246,809	△432,890
株主資本合計	3,912,002	4,147,378
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	65,668	48,166
為替換算調整勘定	20,040	19,653
その他の包括利益累計額合計	85,708	67,819
新株予約権	27,330	32,300
少数株主持分	293,466	349,101
純資産合計	4,318,508	4,596,599
負債純資産合計	8,551,028	7,905,459



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
売上高	10,505,703	11,789,155
売上原価	7,139,254	7,876,768
売上総利益	3,366,449	3,912,386
販売費及び一般管理費	2,624,143	2,983,766
営業利益	742,306	928,619
営業外収益		
受取利息	3,402	3,109
受取配当金	189	793
保険解約返戻金	647	4,369
投資事業組合運用益	—	6,708
助成金収入	972	6,979
その他	1,824	2,494
営業外収益合計	7,035	24,455
営業外費用		
支払利息	1,032	1,500
為替差損	1,757	—
支払補償費	—	4,724
持分法による投資損失	1,694	3,404
その他	1,530	1,635
営業外費用合計	6,015	11,265
経常利益	743,326	941,809
特別利益		
新株予約権戻入益	4,743	—
負ののれん発生益	2,042	—
特別利益合計	6,785	—
特別損失		
固定資産除却損	328	375
投資有価証券評価損	132	2,025
貸倒引当金繰入額	41,285	—
事務所移転関連損失	—	2,678
特別損失合計	41,746	5,079
税金等調整前四半期純利益	708,365	936,729
法人税、住民税及び事業税	305,909	303,363
法人税等調整額	21,245	31,472
法人税等合計	327,155	334,835
少数株主損益調整前四半期純利益	381,209	601,894
少数株主利益	50,654	72,796
四半期純利益	330,555	529,097

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	381,209	601,894
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,715	△17,502
為替換算調整勘定	13,581	△252
その他の包括利益合計	33,297	△17,754
四半期包括利益	414,507	584,139
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	362,457	511,242
少数株主に係る四半期包括利益	52,050	72,897

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

自己株式の取得

当社は、平成26年8月12日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、次のとおり自己株式を取得いたしました。これにより、自己株式が186,081千円増加しております。

- ① 取得した株式の種類 当社普通株式
- ② 取得した株式の総数 328,200株
- ③ 取得した期間 平成26年8月13日～平成26年8月22日

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野(日本)	クリエイティブ 分野(韓国)	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,749,314	1,444,773	1,591,099	9,785,187	720,516	10,505,703	—	10,505,703
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11,070	3,445	—	14,516	10,024	24,541	(24,541)	—
計	6,760,385	1,448,219	1,591,099	9,799,704	730,541	10,530,245	(24,541)	10,505,703
セグメント利益又は セグメント損失(△)	403,726	2,795	377,402	783,924	△49,000	734,924	7,381	742,306

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額7,381千円は、セグメント間取引消去であります。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「医療分野」において、連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社の株式を追加取得いたしました。これにより、負ののれん2,042千円が発生し、当第2四半期連結累計期間において特別利益(負ののれん発生益)に計上しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野(日本)	クリエイティブ 分野(韓国)	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,920,561	1,625,838	1,766,255	10,312,654	1,476,500	11,789,155	—	11,789,155
セグメント間の内部 売上高又は振替高	13,946	2,410	—	16,356	8,749	25,106	(25,106)	—
計	6,934,507	1,628,248	1,766,255	10,329,011	1,485,250	11,814,261	(25,106)	11,789,155
セグメント利益	413,536	16,012	419,952	849,501	76,242	925,743	2,875	928,619

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額2,875千円は、セグメント間取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

株式給付信託型ESOPの導入について

当社は、平成26年10月2日開催の取締役会において、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託型ESOP」(以下、「本制度」といいます。)の導入を決議いたしました。

(1) 本制度導入の目的

当社では、従業員インセンティブ・プランとして、米国で普及している従業員向け報酬制度のESOP (Employee Stock Ownership Plan) を参考に、本制度の導入を検討してまいりました。今般、一定以上の職位者に対し経営参画意識の向上を促すとともに、業績へのコミットメントとそのインセンティブを高めるための報酬制度として、本制度を導入することといたしました。

(2) 本制度の概要

本制度は、あらかじめ当社が定める株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社が当社従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定します。当該信託(以下、「本信託」といいます。)は、株式給付規程に基づき当社従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を株式市場において取得します。

当社は、株式給付規程に基づき、従業員に対し業績貢献度等に応じてポイントを付与し、退職時に(累積した)ポイントに相当する当社株式を無償で給付します。

本制度の導入により、当社従業員の業績向上及び株価への関心が高まり、当社従業員がこれまで以上に意欲的に業務に取り組むことが期待されます。

(3) 本信託の概要

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| ① 委託者   | 当社                             |
| ② 受託者   | 三井住友信託銀行株式会社                   |
| ③ 受益者   | 株式給付規程に定める受益者要件を充足する者          |
| ④ 信託管理人 | 当社と利害関係のない第三者                  |
| ⑤ 信託の種類 | 金銭信託以外の金銭の信託(他益信託)             |
| ⑥ 信託契約日 | 平成26年10月10日(予定)                |
| ⑦ 信託の期間 | 平成26年10月10日(予定)～平成36年9月30日(予定) |
| ⑧ 信託の目的 | 受益者要件を充足する当社従業員に対するインセンティブの付与  |
| ⑨ 制度開始日 | 平成26年10月10日(予定)                |

(4) 本信託による当社株式の取得の内容

- |           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| ① 取得株式の種類 | 当社普通株式                      |
| ② 取得株式の総額 | 300,000千円(予定)               |
| ③ 株式の取得期間 | 平成26年10月10日～平成26年10月31日(予定) |
| ④ 株式の取得方法 | 取引所(ToSTNeTを含む)より取得         |